

提供日 2017/04/28  
タイトル マダニに咬まれないよう注意しましょう！  
担当 危機管理部 危機報道監  
連絡先 健康福祉部 医療健康局 疾病対策課  
くらし・環境部 環境衛生科学研究所 微生物部  
TEL 054-221-2986（疾病対策課）  
054-245-2146（環境衛生科学研究所）



## - 危機管理情報 -

# マダニに咬まれないよう注意しましょう！ ～春から秋にかけて、マダニの活動が活発になります～

### 1 要旨

春から秋にかけてマダニの活動が盛んになる時期です。レジャーや農作業などで野山や草むら、畑などに入るとマダニに咬まれることがあります。マダニが病原体を保有している、咬まれた人が「**日本紅斑熱**」、「**重症熱性血小板減少症候群（SFTS）**」などの感染症にかかる危険性があります。これらの疾患にかからないようにするために、野外でのダニ対策が重要です。

### 2 主な感染症

#### (1) 日本紅斑熱

- 日本紅斑熱リケッチアという病原体を保有するマダニに刺されることで感染し、人から人へ感染して広がるものではありません。
- マダニに刺されてから、2日から8日の潜伏期間の後、高熱、発疹が現れ、重症化した場合には、死に至ることもあります。
- 平成28年5月には県内でも日本紅斑熱による死亡例が報告されています。

#### (2) 重症熱性血小板減少症候群(SFTS)

- SFTSウイルスを保有するマダニに刺されることで感染し、人から人へ感染して広がるものではありません。
- マダニに刺されてから、6日から14日の潜伏期間の後、発熱、消化器症状などが現れ、重症化した場合には、死に至ることもあります。
- 県内ではこれまで患者の発生は確認されておりませんが、環境衛生科学研究所が実施したマダニ調査によると県内で採取したマダニからSFTSウイルス遺伝子が検出されています。

### 3 注意喚起

#### (1) マダニに刺されないようにしましょう！

- 特にマダニの活動が盛んな、春から秋にかけて注意が必要です。
- レジャーや農作業などで、野山や草むら、畑などに入る場合は、長袖、長ズボン、足を完全に覆う靴を着用し、肌の露出を少なくしてください。
- マダニ用に市販されている忌避剤はありませんが、虫よけ成分（ディート）が含有されているツツガムシ用の忌避剤を使用することで一定の効果が得られることが確認されています。ただし、ツツガムシ用の忌避剤で、マダニを完全に防ぐことはできませんので、他の防護手段と組み合わせて対策を取りまじょう。

#### (2) 屋外活動後は、マダニに刺されていないか確認しましょう！

- マダニに刺された場合は、数日間、体調の変化に注意しましょう。
- 発熱等の症状が見られたら、早めに医療機関を受診し、マダニに刺された可能性があることを伝えまじょう。